

卒業論文

福岡市学童保育：学年拡大の社会実験

—福岡市立飯倉中央小学校留守家庭子ども会の事例から—

平成 18 年度入学

文学部人文学科人間科学コース

社会学・地域福祉社会学

平成 22 年 1 月提出

要約

本論文では、福岡市留守家庭子ども会における夏休みの段階的学年拡大を一種の社会実験として捉え、参与観察および聞き取り調査によって、学年拡大の現場の実情および課題を第三者の視点から明らかにし、さらにその実情をふまえた今後の展望について考察した。

第1章では、「学童保育とは何か」に始まり、さらになぜ学童保育が必要とされているのか、それを必要とする社会的背景は何なのかという疑問について、女性の社会進出、核家族化、地域関係の希薄化、そして育児不安の高まりという4つの観点から説明する。

第2章では、学童保育の位置づけに関して児童福祉法の観点から示す。ここでは児童福祉法制定から改正までの流れ、そして学童保育が法制化に至るまでの経緯を説明し、最後に学童保育の全国的な現況に触れている。

第3章では、福岡市留守家庭子ども会の現状を示した上で、学年拡大への市の動向をまとめた。「日本一子育てしやすいまちづくり」を市の重要施策として掲げる福岡市が、どのような経緯を経て、どのような形で留守家庭子ども会の学年拡大を実現していくのか、私がこの学年拡大を社会実験と捉える所以とともに示している。

第4章では、社会実験概要、そして具体的な調査概要に触れたあと、学年拡大という社会実験に関わる4つのアクター（市、指導員、保護者、児童）の期待／懸念を示した。そして、それらを各類型に分類した後に、それらと実際の比較・検証を行い、その結果をまとめた。

第5章では、第4章の比較・検証によって見えてきた実情をふまえて、今後の留守家庭子ども会の学年拡大への展望について述べ、本論を締めくくっている。

目次

はじめに	1
第1章 学童保育の必要性とその背景	2
第1節 学童保育とは	2
第2節 少子化と保育	2
第3節 女性の社会進出	3
第4節 核家族化と地域関係の希薄化	7
第5節 育児不安	9
第2章 学童保育の位置づけ——児童福祉法の観点から	13
第1節 児童福祉法制定	13
第2節 児童福祉法改正	13
第3節 学童保育の法制化	14
第4節 放課後児童健全育成事業	15
第5節 学童保育の現在	16
第3章 学年拡大に向けて	17
第1節 福岡市学童保育：留守家庭子ども会	17
(1) 留守家庭子ども会とは	
(2) 受益者負担の適用	
第2節 現在の福岡市留守家庭子ども会	18
(1) 福岡市留守家庭子ども会の概要	
(2) 留守家庭子ども会を利用している児童たち	
第3節 日本一子育てしやすいまちづくりへ——社会実験という試み	20
(1) 留守家庭子ども会事業の拡充	
(2) 段階的学年拡大の試み——いわゆる社会実験へ向けて	
(3) 学年拡大への期待	
第4節 市による事前調査	22
(1) 全児童の保護者対象アンケート	
(2) 学校施設調査	
第4章 学年拡大という社会実験	24
第1節 実験概要	24
実験目的／実験方法／実験対象／実験期間／実験に関わる4つのアクター	

第2節 調査概要	25
(1) 調査目的	
(2) 調査対象	
(3) 調査手法	
第3節 調査結果 ——それぞれの期待／懸念と子どもたちの実際	27
(1) それぞれのアクターにおける期待と懸念	
(1) - 1. 市の期待と懸念	
(1) - 2. 指導員の期待と懸念	
(1) - 3. 保護者の期待と懸念	
(1) - 4. 著者の期待と懸念	
(2) 期待／懸念——3タイプへの分類	
(3) 様々な側面における期待／懸念	
(3) - 1. 環境的側面	
(3) - 2. 役割期待的側面	
(3) - 3. 日常的側面	
第4節 検証——期待／懸念と実際	35
4-1. 環境的側面において	
4-2. 期待役割的側面において	
4-3. 日常的側面において	
第5節 検証のまとめ	49
5-1. 環境的側面より	
5-2. 期待役割的側面より	
5-3. 日常的側面より	
第5章 考察——今後の展望	51
(1) 長期休暇利用についての展望	
(2) 通年利用についての展望	
おわりに	54
参考文献・参考 URL 一覧	55